平成23年度　決算説明書／事務事業評価シート

前年度課室名	高齢者福祉課
課　名	高齢者福祉課

予算	款	項	目	決算書	
	3	2	1	106	頁

目　　名
老人福祉総務費

事務事業名称
老人福祉総務事業

1．概要

目的	高齢者の知識や経験を活かし、生きがいと健康づくりのための様々な活動を行うことができるようにする	対象	65歳以上の高齢者

事業概要

○はり、きゅう治療費助成金
　はり・きゅう、マッサージの施設を利用する者の経費を助成することにより、健康保持と福祉増進に寄与した
［対象：70歳以上の高齢者］

○敬老祝品支給事業
　高齢者に対して、敬老祝金を支給することにより敬老の意を表し、併せて福祉の増進を図った
　敬老祝品の支給・・・80歳に達した対象者（5,000円相当）
　　100歳に達した対象者（10,000円相当）

○ねんりんピック
　高齢者の健康と生きがいの高揚を図るため大分県大洲総合運動公園で行われる大会にゲートボール等に参加
［対象：原則60歳以上］

○老人福祉事務費
　・老人福祉計画策定事業・・・平成23年度から平成26年度までの各種施策の基本方針等を定めるものとして
　　「老人福祉計画及び第5期介護保険事業計画」を策定

　・長湯憩の家選定審査会及び老人福祉計画策定委員会謝礼

臨／経	事　業　名	事業内容（主な経費等）		予算現額（千円）	決算額（千円）	財源内訳				評価
						国・県支出金	市債	その他	一般	
経常	はり、きゅう治療費助成金	支給人数（1，378人） 利用枚数（4，676枚）	扶助費	5,026	4,695			1,094	3,601	2
経常	敬老祝品支給事業	80歳（629人） 100歳（13人）	報償費	1,630	1,463				1,463	2
経常	ねんりんピック	参加人数（205人） 参加種目（12種目）	需用費	546	479				479	2
経常	老人福祉事務費	長湯憩の家選定審査会、 老人福祉計画策定	委託料	2,508	2,389			2,079	310	3
計				9,710	9,026	0	0	3,173	5,853	

２．指標設定

成果指標	指標名	健康寿命（介護認定していない年齢）	目標年度	H27	指標の設定理由
	数値	83歳			総合計画/後期基本計画において、基本施策(1-1-3)の目標にある要介護の重度化防止によるため

活動指標									
	指標	a	はり、きゅう利用率	b	敬老祝金支給者数	c	ねんりんピック参加人数	d	
	数値	目標	70%	目標	650人	目標	200人	目標	

３．実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３
健康寿命(介護認定していない年齢)	歳	79.8 歳	80.1 歳	80.0 歳
		96.3 %	96.5 %	96.4 %

活動指標名		単位	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３
a	はり、きゅう利用率	%	54 %	53 %	57 %
			77.7 %	75.4 %	81.4 %
b	敬老祝金支給者数	人	632 人	695 人	637 人
			97.2 %	106.9 %	98.0 %
c	ねんりんピック参加人数	人	191 人	192 人	205 人
			95.5 %	96.0 %	102.5 %
d					

４．課題と対応

課題
高齢者は定期的運動をすることが、介護予防に効果があることの認識がまだ弱い
対応（改善点等）
単位老人クラブによるラジオ体操及びブンドコ節の普及

５．事業費・・・Ｈ２１～Ｈ２３（決算額）、Ｈ２４（予算現額）

決算額（千円）		H21	H22	H23	H24
		7,315	16,560	9,026	10,373
	うち経常経費	6,172	16,560	5,674	9,163
財源内訳	国費	0	0	0	0
	県費	0	7,186	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	1,143	3,117	3,173	1,210
	一般財源	6,172	6,257	5,853	9,163
	うち経常	6,172	6,257	3,596	9,163
事業費に係る人件費		13,738	13,139	10,535	9,962

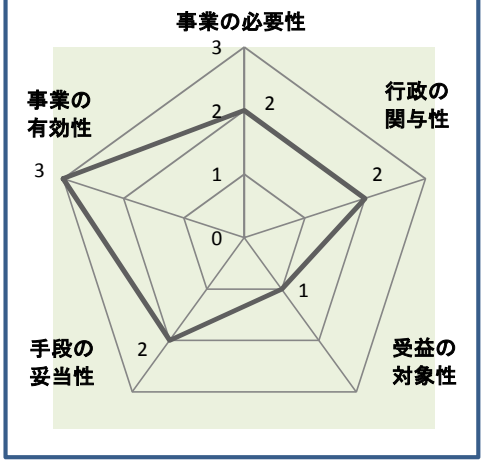
６．H25年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
現在60歳～64歳(3,757名程度世代年齢数が751名)が人口構成上一番多い。継続的事業である

７．担当課による分析

着眼点		分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	2	他町村の状況を踏まえ、敬老祝い品事業(80歳)は、考察必要がある。
② 行政の関与性	責任領域の精査	2	高齢者健康づくりに繋がる事業であるが、ねんりんピック事務局は考察の余地がある。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	1	65歳以上の高齢者に対する健康づくりの事業である。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	2	はり、きゅうの受給率は平均55%程度、受給率は上昇傾向である。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3	高齢者健康づくりに繋がる要因と考える。

分析グラフ



８．内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	**経費削減に努め、効率的、効果的な事業実施に努めること**